

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700781		
法人名	(株)アルムシステム		
事業所名	グループホーム新得ふれあい館		
所在地	北海道上川郡新得町西3条南6丁目1-3		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0174700781-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

インターネットを活用し、ホームの出来事を写真付きで公開している。道外や管外の家族さんから、ホームの様子が見られて嬉しいとのコメントをいただいている。食にこだわり、皆さんが好きなものを把握し提供に努めている。バイキング食は好評でした。ボランティアさんとも長いおつきあいで、毎月紙芝居を披露していただいている。地域包括が主体の認知症キッズサポーター養成講座にも毎年参加し、認知症の理解を深めるご協力をさせて頂くとともに小学校との交流はホームにとっても貴重な機会になっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年11月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR新得駅近くの閑静な住宅街にあり、窓から新得山を眺望でき豊かな自然に囲まれている。母体法人は多くの介護事業所を運営し、日頃から職員の研修には力を入れ「身体拘束防止」を初め各種の委員会を設置しケアの質の向上に努めている。職員は利用者一人ひとりの健康状態を把握し、座ったままで出来る体操を毎日行い、利用者の健康維持に効果をあげている。町内会に加入し地域の一員として、草刈、清掃、祭りなどの町内会行事に積極的に参加し、紙芝居ボランティアが来訪して交流を深めると共に、小学校6年生を対象にした「認知症キッズサポーター講習会」に講師を派遣したり、相互に交流しながら地域に貢献している。インターネットを活用し事業所の毎日の様子を家族に知らせ家族に喜ばれている。職員は、優しく、温かく、家庭的な雰囲気の中で利用者は、トランプ、折り紙、ぬり絵などをしながら思い思いに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が 増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が みられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足している と思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の理念を踏まえ、町内会への参加や地域福祉の為に持てる知識や技術を活用し実践している。	地域密着を基本にした事業所独自の理念を職員と共に作成して廊下に掲示し、職員会議の時に確認共有してケアに繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会や運営推進会議などを開催し地域とのつながりを大切にしている。	町内会に加入して町内会行事(花見、お祭等)へも参加している。生徒の認知症への理解が深まるように、新得小学校6年生を対象とする「認知症キッズサポーター養成講座」に講師を派遣している。幼稚園、保育園との交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キッズサポーターの養成のための支援を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見等は、本社に報告している。実現可能なものは話し合っている。	役場、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、家族などが参加して年6回実施、活動状況などを報告しその都度委員から助言や意見があり、運営に反映させている。議事録へ記載すると共に出来ることから実施の努力をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加をしていただくほか、見学や訪問等にも応じている。地域で入居希望される人の情報のやり取りが円滑に行われている。	役場との連携が密接であり、役場や社会福祉協議会等との連携のもとに小学校6年生を対象とした「認知症キッズサポーター養成講座」に協力している。毎月、役場の指導助言を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。また、やむを得ず拘束が必要になった場合は3要件を満たす条件があることも理解している。	母体法人が積極的な委員会活動を定期的(2ヶ月毎)に開催しているので職員を受講させている。職員は拘束が異常であるという理解認識をしている。徘徊可能性ある利用者には常に行動に注意を怠らない配慮をして予防している。夜間は防犯上から玄関の施錠をしているが普段は玄関はフリーである。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修に参加し、最新の知識にも関心を持っている。			

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修は最近参加していない。新規入居で身元保証人が管理できないケースがあれば、関係機関に相談したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間を設け、トラブルを避けている。契約書も読んで説明するだけでなく、考えられるケースなど具体性を持ってご説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など要望に耳を傾け、できるものは反映させていると思う。	利用者の意見、要望は日常の会話などから意向の把握に努め、家族とは、家族の来訪が多いのでその都度聞き取りをし共有している。来訪の無い家族へは電話連絡を心がけている。毎月のホームだよりに個別に手紙を添付して日々の生活実態を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、職員の意見 & 提案に耳を傾けている。	職員と管理者との意思の疎通がなされている。職員提案一例「利用者の体調良好によりおかげを五分がゆへの変更」、「服薬チェックの改善 その都度確認励行」の改善励行等。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働く条件として、休暇やシフト希望が少なくないので、出来る範囲で対応している。地域性を踏まえた手当なども検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の参加がメインで、外部の参加は多くない。今後働きかけて、やりがいを高める良い機会にしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親睦会を実施している。又、ケアカフェに参加をした。横のつながりも大切だと感じた。今後、開催があれば参加できるよう働きかけていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の心配や意向に耳を傾け、部屋の環境整備や食に関する事など安心確保に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談や電話での問い合わせなどで、病院の受診や持ち込む家具のことなど心配の払しょく、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にカンファレンスを行い、お迎えするための準備を全員が話し合っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、掃除、工作、山菜の下ごしらえ等興味あることに参加できるよう配慮		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊がスムーズに行えるよう準備や説明を行っている。記念日などでは、家族さんとホームが共に準備を行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟、友人や知人、地域の人々がたずねてくださり、馴染みの美容室にも継続して通えるよう支援している	地域の行事である「高齢者芸能発表会」への参加。地元商店への買い物や散歩により地域との交流を図り馴染の継続が出来ている。馴染の理美容院に通えるように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起きないように関係性や身体機能を把握した上での、テーブル配置、リビングでの席順を決めている		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	アドバイスを求められることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩、買い物、美容室等、できる限りの意向に 応えている	日々の会話、表情、動作から希望や意向を把握、 困難な場合は家族の情報を基に意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を踏まえ、ご本人が好きな会話が 出来るように情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンスで話し合っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、 本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見や アイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議や面会に来られる家族さんとも話し、 現状にあったプランを作成している。	6ヶ月毎の見直しが基本だが、日々の体調変化に応じて 担当者が管理者に報告をして必要に応じてケアプラン見直し を図り職員会議にかけてケアプラン変更が決まると家族へ 報告をして確認捺印の上、対応する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に 記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直し に活かしている	記録、会議をもとに、スタッフの意見も聞きながら見直し を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、 既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	食事の時間、入浴等 ご本人の体調や気分に応えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心 身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	町内会への参加、ボランティアさんの訪問等継続しており、 楽しみにしている人も多い		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたか かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	馴染みの病院に通えるよう支援	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう 支援している。通院は家族同行が基本だが利用者の日々の 体調を医師に報告する為に努めてスタッフが同行し、一方 医師から受けた説明を家族へ知らせている。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携でサポートしてくれる看護師さんに相談が出来、安心感が増している	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域のネットワークに参加。医療機関の連携室とも相談、情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、予測される状況をご説明し出来る手続きや対応を行っている。	契約時に「重度化した場合」事業所として出来ることを説明しているが、重度化した場合は早い時期に家族、医師、職員と話し合う機会を持ち、特養の紹介、病院など出来る限りの支援をしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後計画し実施したい	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在マニュアルを準備中	従来から消防署、運営推進会議メンバー、地域の方々に参加を得て防災訓練を実施してきたが今年8月の水害被害に遭遇してこれからは想定外災害とは言えないと理解した。従来の備蓄では不足であると理解した。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名字や下の名前のどちらかで、ご本人の希望も伺い対応している。言葉遣いは気を付けている	利用者が毎日気持ちよく暮らして行ける様に個別の呼び方に配慮している。言葉遣い、接遇、語調には特に気を付けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや着替えの時などで、自己決定を尊重した声掛けを行っている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や入浴等で希望を聞き、可能であれば実施している。出来なければ、丁寧な説明をし同意をいただいている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の長い人にはセットをして差し上げ、着替える際の希望も尊重している	

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えるときもある。お喋りから出た「いも餅」をその日に作るなど楽しみをつくっている	食事の準備や片付、おやつ作りなどを一緒にしたり、誕生日、季節の行事食やクリスマス会を楽しんでいる。通院時にラーメン屋さんに寄ったり焼肉を食べたりしている。地域の人から旬の野菜が届き季節を感じている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をチェックし必要に応じた対応を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない人には必要な支援を行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調に応じ使い分けている	排泄のパターンを把握し適時にさりげなくトイレに誘導して自立排泄に努めている。リハビリパンツからパットへ、そして布パンツへと配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルト、OS-1、水分摂取は医師のアドバイスを聞きながら取り組んでいる。食生活も偏らないよう配慮			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に耳を傾けながら、体力にも考慮し実施	入浴の日を固定しないで事実上フリーとし、週3回を目標に実践出来ている。嫌がる時には時間をずらしてスタッフを変えて再度入浴誘導している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安な利用者さんに付き添うことや、居室の明るさなどに配慮している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からいただく説明書を確認している。気になることがあれば電話で相談などしている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花札、トランプ、折り紙、塗り絵、新聞等その人にあったものを楽しめるよう配慮			

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添えないこともあるが、家族さんによって、外出や外泊機会が出来る。継続されるように出来る協力は行いたい。	地域行事へ参加外出。通院時の食事寄り道、年間行事予定のバス外出。徘徊予測される利用者への服装記録と特徴記録を実践してる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、自己管理や意欲を持った方がいない。「もうできない」ではなく可能と思われれば、家族さんと相談の上で対応したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使える。人によっては番号をスタッフが押して電話をかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダーで季節感を感じていただけるよう考えている。玄関やデッキにベンチを設け、館内にこだわらず落ち着ける場所を作っている。	居間は明るく家庭的で、手づくりのカレンダーがかけられ、事務室、調理室から利用者の様子が一目で確認できる。窓からは花壇や、畑が見え季節の移ろいを感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食卓、玄関、デッキ等思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの私物、愛用品を持ち込んでいただくことで自宅に近い環境になるよう説明させていただいている。	居室には仏壇や馴染みの品が置かれ、家族の写真や、孫のぬり絵など貼られ居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カーテンをする電気をつける等、スタッフが先回りせず待つことで自立が保たれる部分があるので大切にしている。そのために、設備はあまり難しいものは置かず、見てわかるものを使う。		